



子ども大学かわごえ

CUK だより

第70号 NO.160115

2016年1月16日

子ども大学かわごえ 第8期 第6回 授業

親子学セミナー記録

日時 : 2015年12月19日 14:00~16:00

場所 : 蓮馨寺講堂

テーマ : 「21世紀における宗教の意味」

講師 : 浄土宗 蓮馨寺 糸原恒久住職

はじめに

ご紹介ありがとうございました、蓮馨寺の住職の糸原でございます。

この寺の48代目の住職ですが、お寺が忙しく、この5年間旅行も行ったことなく、土日家に居ない日はありませんでした。

私は川越観光協会の会長をやっています。川越の観光客が650万人と大変な人数になってしまいました。川越は蔵造りの街の電線が地中化しており、この辺も地中化してほしいと交渉中です。

私の専門は仏教の浄土宗です。浄土宗の仏教書を8冊ほど書いて、全国で20人くらいしかいない学問のトップクラスの賞状を2年前、大本山増上寺の大勢の前で授与されました。大変ありがとうございました。



今日の参加者の中に若い方が居るので申し上げますが、やる気になることが大切です。私は勉強が大嫌いで、野球少年でした。朝から晩まで野球をやっていました。親が言うので、3年の3学期から頑張って川越高校へ入り、その後、慶応大学法学部に進みました。今、大正大学、東邦音楽大学、淑徳大学の3大学で週1回講義をしています。

仏教と釈迦

父が20年前に亡くなり、その後を継ぎました。しかしただ拜んでいれば何とかなる、お金を取る形だけの宗教は大嫌いです。いま、お寺は全国で8万軒あります。宗教とは何かと言いますと、特殊な理論ではなく、我々が心で考えていることをそのまま文字にしますと仏教になります。

例えば、いつもお土産買ってきてくれる隣のおばさんに、たまにはハンカチでもやろうかなというのは仏教の恩です。恩が来たら恩を返すのは仏教の教えです。それから、学校に行って一生懸命頑張ると成績が上がった。努力をするものは報われる。仏教は良い原因があれば、良い結果が出る。善因善果、悪因悪果も仏教です。

お釈迦さまは、インド大陸の釈迦族という小国家の王子様として生まれました。何不自由することなく育ちましたが、ある時、城の東西南北の一つの門から出ますと、子供が死んで町の人々が泣いているのに出会いました。別の門から出ると、おじいさんが死にかけているのにお金がなくて医者も呼べず周りの人が泣いている、別の門では人さらいにあった子供を探している血眼のグループに出会いました。釈迦は悲しくて、恐ろしくなりました。残された門から出ると、街中を整然と何か悟りを求めて、ヒンズー教の坊さん(当時はまだ仏教がない)が整然と列をなして歩いているのを見たら、感動を受けました。お釈迦さまは、お金も権力も地位も全くない人が幸せになるという原理がないのかと考えて、ある時それを求めて着のみ着のまま修行の旅に出て、二度と城には戻りませんでした。



釈迦は、毎日インドの暑い木の下で瞑想にふけりました。感受性の強い釈迦には宇宙の声が聞こえてきました。結局人間は大きな宇宙全体の生命力に支えられている、大きな温かいものがあるという宇宙を貫く原理原則に気が付きました。お釈迦様が認識したことは、私たちは地球や社会の営みの中で生かされてきた、そして命がつながって、遺伝子が繋がって、自分がここにいます。これは親とお父さんお母さん無数の先祖方々の計り知れない命が作ってくれたもので、牛や馬や卵、植物など大地全体のエネルギーと生命力が先祖をつくり、その先祖が私たちをつくってくれたのだ、つまり地球全体、空気、水が私一人の為に活かそう活かそうと働き続けてくれているという事に気が付いたのです。

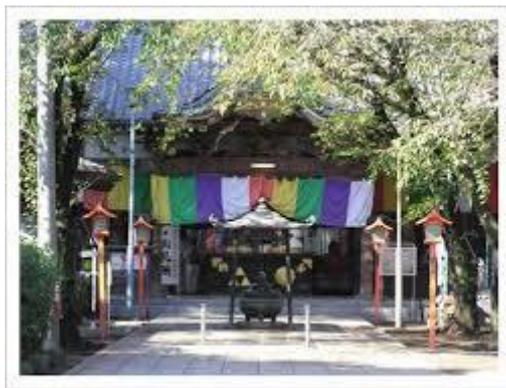
先祖と命のつながり

ところで仏教が言う仏(ほとけ)とは死んだ人になるのではないかだろうかと考える人がいます。いやそうではなく、仏は宇宙全体を流れる我々を活かす大きな作用を仏と言います。仏の存在は法則として現れます。法則とは重いものが上から落ちるのもそうですし、努力をすれば報われるのも法則です。人に親切にしていると人の親切が返ってきます。

先祖供養は貴重な命をいただいたのだからこれから人のために世のために頑張ろう、そういう生き方をしようと気が付くことであり、そのための行事が法事なのです。

曾祖父の法事でおしゃべりしている小学生がいたので、「あなたの中に今日弔いした曾祖父の遺伝子があなただよ。あなたの血や肉が今日ご供養した曾祖父のものだよ」と言いました。「はい」と言ってピシッとしましたね。

夏のお寺の施餓鬼^{せがき}というお盆の大行事があります。全体の檀家に集まってもらい、檀家の十代遡った二千人以上の先祖の供養をしました。戒名がある位牌があるのは5~10人くらいで、それ以外の多くの先祖が不遇な死に方をしたか、餓鬼道に落ちているかもしれないので、その方々にも供物をあげ、良い世界に天翔していただくという優しい人間の心がお盆の施餓鬼の供養なのです。意外と解らない方多いのですが。



「真善美」と「共生」

それでは我々はどこに向かって生きていくのでしょうか。西洋哲学と一緒に、「真善美」です。真は真実に生きる。善は自分も向上し他の人も生かしてあげる事。美は仏教では微妙という意味で、あらゆるものがバランス良く存在するという意味です。だから、皆と仲良くすれば、バランス良く

存在します。仏教は対立を全く好みません。徹底的に相手の中に入って行く。相即相入と言います。

以前、小泉総理大は北朝鮮へ切り込みましたね。金正日総書記は「はい」と拉致の事実を認めましたね。恐ろしいから、いやだから知らん顔するのは「共存」です。それに対して、共に利益を得て、両方が高まっていく生き方を仏教では、共に生きる、「共生」と言います。華嚴經の御經に「人間は共生すべきだ」と書いてあります。椎尾弁匡大正大学学長は大正11年に「日本の社会はこれから共生という論理で進まなくてはいけない」、「絶対に戦争をやってはいけない」と言っています。

私は宇宙の目に見えない真理なり声を聞いて文章に現すと御經になると考えています。例えば、宇宙全体を見ますと無数の惑星や恒星がお互いの引力で引き合い大空間に浮いています。太陽のエネルギーが水金地火木土天晦冥まわりの惑星を生かしています。宇宙の中で地球があるから月がある、地球の引力で他の惑星がある。宇宙は共に生かし合いです。この生かし合いは太陽が駄目になると地球も月も駄目になる。宇宙のお互いの生かし合いの原理を人間の生活に投入しようというのが「共生」という考えです。



華嚴經により聖武天皇が奈良に東大寺を造りました。日本で一番大きい大仏で、我々を生かす先祖から無数の命の世界、宇宙の光のエネルギーをこの仏像で現したのです。この華嚴經を聖武天皇の朝廷が日本へ取り入れたのです。

東京都知事の石原慎太郎さんと、親鸞聖人の本を執筆する五木寛之さんの対談がありました。都知事が、

「自分は作家でやりたい事、国会議員、都知事を自分の力だけでやりました。頼りになるのは自分だけだ」と言い、聞いていた五木さんが

「石原さん解りますが、あなたの能力とやる気を起させたのは、あなたの先祖です。自分の体は自分で造っていないでしょう」

「えっと、確かにそうだなあ、二人で合掌」

という対話があります。

「共生」は難しいですね。この考え方には勇気がいります。私は仏教者ですから相手が誰でも言うべき事は言い、聞くべき事は聞いています。にこやかに行きます。皆と上手くやっていきます。生かされているという感謝の気持ちがあれば、物事は必ず上手くいくと思います。「共生」の考えがあれば勇気を持って人に言うべき事が言えます。会社や町内会の立場から言いにくいこともありますが。言いたい事は言った方が良いのです。



子供にでもそうです。今ゆとり世代の学生は、きつい事を言うと下を向いてしまう。弱いなと感じています。

修行するお坊さんの監督もしています。朝5時に起き2時間掃除、朝ご飯食べ、大広間で寝泊まりを1週間します。最初は「いびきがうるさい」と修行僧が言いますが、1週間経ちますと、「大丈夫です。いびきがあっても眠れます。あいつは良いやつですから」と言い方、人格が変わります。つまり、人間は動機付けを受けますと良い方向に心が向いていきます。

皆さん、「情けは人の為ならず」という言葉があります。人の為の行いは自分に返ってくる。仏教の論理は人にした行為は自分に必ず返ってきて、自分が幸せになるという事です。人間は元来幸せに、お互い協力しあい、共に共生、宇宙の原理原則に則り生きるためにこの世に存在しています。必ず相手もわかります。

競争と進化

もう一つの宇宙の論理は進化です。

宇宙のなかで星はお互いに競争しています。競争に負けていなくなった星はバンと爆発し塵となり、何十万年も経つとくっついて、また星になります。このように競争は人間社会でやって良いと仏教で考えています。本当に自分に向いていた働き、方向を見出すために競争があるのです。競争のない共存、すなわち可哀そうだからいいじゃないかとして放っておくと社会全体、会社全体が落ち込んでおしまいです。子供も競争したいのです。スケートの羽生選手は素晴らしいですね。ゴルフの石川選手も「競争があるから私ここまで生きてこれたのですよ」と言っています。



子供の教育も、真実に生きましょう。勉強して下さい。スポーツして下さい。どのように生きるのか、頑張るとはどういうことか真実がわかります。勉強すれば人間は向上できる、知らない知識が身に付く事がわかります。善は困った人を助けましょう、人の意見も聞いて、欠点を認め、こちらの意見も取り入れてもらい、一緒に上がっていきましょうと美です。バランスを取って存在するのです。人間の能力を一つの物差しで図るのは最低です。十人十色です。お釈迦様はその人に応じた説教をして、文章化されたので経典が膨大にあります。

浄土宗は気楽です。人間元々凡人で悟りは開けないと言っています。悟り開いて座禅し禁酒し、欲望を遠ざけましょうとしている所もあるかもしれませんが、人間は煩惱、欲望の塊を良い方向に向けて下さいというのが、浄土宗です。ただし、宇宙の原理原則の中で行ってくださいね。

南無阿弥陀仏。

エコプロダクツ2015」環境展示会訪問

去年12月12日(土)に東京ビックサイトで開催された首記環境展示会に参加しました。参加者は学生45人、ジュニアスタッフ10人、学生兄弟16人、大人35人でした。日経新聞社のご好意でバス2台をお借りして行けたので、車内では新聞部のジュニア・ジャーナリストが積極的に取材を行っていました。今回のエコプロダクツのテーマは「私が選ぶクールな未来」でした。参加者は事前学習をしてきましたので、訪問先の小間では展示ブースについて活発に質問をしていました。環境への企業の取り組み等に実際に触れることが出来たので良い勉強になりました。



新聞部ではスタッフが効果的に役割分担を行い、各グループに同行して取材活動をスムーズに行いました。家族で参加した方はバラバラにならないようにグループでまとまって、見学しました。付添いで協力していただいた保護者の努力で事故もなく見学を終えることが出来ました。



学長 遠藤克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川崎市霞ヶ関北3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp